

1. 評価結果概要表

作成日平成19年 4月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0873700504		
法人名	株式会社 いっしん		
事業所名	グループホーム いっしん館麻生		
所在地 (電話番号)	茨城県行方市石神1685-1 (電話)0299-80-7560		
評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年4月11日	評価確定日	平成19年10月29日

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 14人, 非常勤 1人, 常勤換算	14.4人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(但し入居2年目から)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,100 円

(4)利用者の概要

利用者人数	15名	男性	5名	女性	10名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 78歳	最低	59歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院
---------	-------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは周辺は住宅や畑に囲まれた静かな環境の中であり、少し足を延ばすと霞ヶ浦にも近い。木造の温かみのある広い建物となっており、明るく元気な職員と一緒に利用者は自由に過ごしている様子が見受けられた。ホーム内は季節感や利用者それぞれの個性が感じられる居室や空間となっており、環境にも重点を置いた生活の場となっている。「一笑懸命」をモットーにこれからも利用者の生活拡充を目指し、地域と共に連携をとり更なる質の向上に取り組みられることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との交流に関して、ホームからの声かけや積極的な広報活動などについての取り組みに対し改善項目とされた。現在では地域への啓発活動と共に、地域住人に向けた広報活動やホームでのイベント活動を通し積極的に地域住人の参加を呼びかけ、施設に気軽に近隣住人が出入りできるよう工夫し努力されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己・外部評価に関して職員に伝え、職員の意見を聞き、取り入れながら評価に取り組んでいる。また、以前の外部評価の改善点はすぐに改善実行に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域や家族からの意見を運営に反映できるように、家族にアンケートを実施。検討し運営推進会議の議題としている。意見箱も各ユニットに設置し積極的に家族や利用者からの意見を受け入れるよう工夫している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	便りを家族に毎月郵送し、様子を伝えている。面会時に直接話したり、利用者の体調不良時には随時電話連絡を行い細かな情報を伝えている。意見箱なども設置し家族や近隣住民などの意見が反映できるよう工夫している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	市や商工会と連携をとりながら、夏祭りなどの年間行事を実施している。また、地元住民からは山菜や野菜を頂いたり、警察署に花壇の設置、世話をするなど、地域の一員として交流を通し地域に根ざした施設となるよう心がけている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念や決め事十則、独自の具体的な目標を掲げ、地域との関係性を重視しながら地域密着型サービスとして取り組みを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が掲載されている基本マニュアルを職員は持参しており、それを読み合わせしながら共有に努めている。そして、管理者は日頃から伝え、振り返りの機会を持っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には入っていないが、市役所や商工会と連携をとりながら、夏祭りを実施している。また、地元住民からは山菜や野菜を頂いたり、警察署に花壇の設置、世話をするなど、地域の一員として交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己・外部評価に関して職員に伝え、職員の意見を聞き、取り入れながら評価に取り組んでいる。また、以前の外部評価の改善点はすぐに改善実行に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	計画の段階であり、現在調整中である。	○	今後市と相談、連絡を取ったり、ホームからの呼びかけも必要ではないかと思われる。会議が開催されサービスに活かせるように努めて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所や商工会の協力を得ている。生保に関わることや運営、ケア等に関してなど、市に相談して聞くようにしており、市町村との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	麻生便りを家族に毎月郵送し、様子を伝えている。面会時に直接話したり、利用者の体調不良時には随時電話連絡を行っている。生保の方には区や市との連携を図っている。金銭に関しては事務所管理または小額自己管理となっているが、レシートを家族に見せ、明細を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人本部で意見を貰い運営に反映できるように、入居後1ヵ月後くらいには家族にアンケートを実施。検討、参考にし家族にフィードバックしている。意見箱も各ユニットに設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動が利用者にとってダメージとならないように、異動に際して情報伝達などの申し送りには時間をかけて対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事例報告会、主任者会議などが目標に向けての意識づけの機会となっている。新人にはマニュアルがあり、職員には任意で外部研修に参加し、その後スタッフミーティングやノートに記録を残し、共有できるように取り組んでいる。法人内で交換研修を行ったり、外部より講師を呼び、講話もしてもらっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会にはケアマネが担当として参加している。近隣のホームに行ったり、行事に参加したりすることもある。		今後も管理者及びスタッフは県の協議会や他のグループホームとの交流を続けていきたいと考えている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の体験ホームは可能であり、宿泊してサービスが納得してもらえるような取り組みを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に喜んだり、助け合ったり出来る関係づくりに職員は熱心に取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京の自宅に帰りたいという希望や利用者のやりたいことなど聞き出し出来るだけの対応をしている。金銭に関する面にも考慮している。		個人旅行の提供をされている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に関してはミーティングで職員で様々な意見を出し合いながら作成している。利用者や家族からの意見や話し合いも十分取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者や家族の満足度は郵送時に手紙を添え聞いており、見直しも行っているが、モニタリング用紙を活用しながら計画の作成が行われていないため判断した。	○	モニタリング用紙を活用し記録として残し、職員間での話し合いをしながら計画の見直しがされると良いかと思われる。家族への報告・確認はこれまでと同様継続して欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の身体変化に応じて、法人内での施設の連携を活かしながら支援できるように体制作りが出来ている。なるべく、法人内でのフォローが出来るようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院との連携を保ち、往診をしてもらっている。入居前には家族と十分な話し合いを設けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルに関しては家族と十分な話し合いが持たれている。往診や医療行為がどうしても必要な場合には病院と連携をとっている。状況により、できるだけ最善の方法がとれるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の扱いは契約時にきちんと家族に話し、同意を得ている。職員は個々に合った言葉かけや対応を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中に利用者一人ひとりの時間の使い方を考慮しながら、支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人内の栄養士が作成している。利用者もメニューを考えたり、買い物、調理など一緒に行ったりと食事が楽しみになるように職員は支援している。地域の食堂からの出前も楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望が重視されており、食事前の入浴など希望に合わせて入浴が出来る。楽しめるように入浴剤を使用し、気分転換も図っている。年に1回他館と合同で温泉旅行を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々のこれまでの職業や習慣などを活かし、役割や楽しみごとに繋げている。管理者はこれまでより、利用者と職員の会話が多くなってきていると感じている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出はもちろんだが、利用者の希望を聞き買い物や一泊旅行などに行っている。車椅子の方もそれらは可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵は全くかかかっていない。夜間のみ防犯上施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回の消防を呼んでの利用者を含めた訓練実施を行っているが、災害ということに関しての取り組みや地域との連携などの意識の薄さがややあるため判断した。	○	避難場所の確認や防災用具(消火器やおんぶ紐など)は確保している。今後は非難時の非常食の準備や地域住民との取り組みがされると良いかと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量は記録に残されている。法人内の栄養士にその都度相談することも可能だが、体調不良のときのみチェックしているとのことで判断した。	○	体調不良になってからは病状が悪化する場合も考えられるため、事前にチェック・観察し健康維持が出来るようであれば良いと思われる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は花が飾られていたり、手作りの暖簾が下げたあたりと心地よく過ごせるよう工夫が見られた。また季節感も感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室やソファのある場所で自由に思い思いに過ごせるよう職員は環境づくりに努めている。		